

手取川の石ころ

5年2組

松浦幸彦

松陽小学校

テーマをきめたわけ

さいしょに手取川について調べよう
としてそのページに右のことが書いて
あり、そのページを見て興味をも
ち、テーマを石についてにしました。

調べ方

- 図書館で本を借りる。
- 実際に行ってみる。
- インターネットで調べる。

手取川で
よく目につくところを
調べてみる。

砂岩



つぶの大きさがそろ、ている炭色
の石^少岩。糸線には石英がま、て
いる。

砂岩



白と赤茶色のしま才対集の砂岩。赤
茶色の部分のつぶは白の部分より
大きく、ややぜ、ば、っているあすかだけ
で、うらぐらいのれきもまじっている。

砂岩



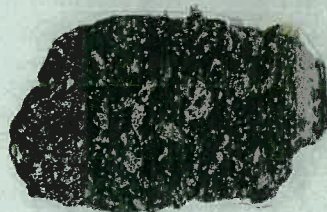
石ころの表面はまんがいてからくにな、っていた。
かたは砂岩だがハンマーで割、てみたら、
中から半透明の白っぽい石の面があら
われた。ここは、石英のまかなつぶがつま、
っている。

火成れきざどう灰岩



やや糸線が、かた灰色の石ころ。れき
は、大きなつぶも小さなつぶも、角
ば、っている。

れき、山石



へんき岩、チャート、けつ岩などのれきを
たくさんふくんだ、れき岩。

れき、山石



しわくぢな形をしているが、とて
もかたけれき岩。よくみるとチャートの
のきれが、あつま、た石ころであるこ
とが、あかる。

れき山石



手取川ダムにしきつめられたこの付
近の地帯でみられるれき岩。よく
まれている白、ぽいれきは大理石。

チャート



和葉^が子のようなやあらかなはだざ
あり。ただし、カッターの刃先でもさ
ずかつかないかたいところだ。

でい山石



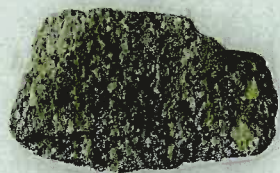
指であん士をこねてかためたよう
な石ころだ。小さなきずがたくさん
ついている。

でい山石



表面がなめらかなでい岩。ただし
ルーペでのぞくと、針の先でツツ
いたような小さな穴や、すいさずかた
くさんついているのがあかる。

宇山山石



割れたときの形をそのままのこした石ころ。白い長石のほんがが目につく。

キラキラ山石



その丸みのあるくらいの大さきの石ころなのに、ずいぶん重たい。黒っぽい灰色の地にこまごま長石のつぶと黒っぽい石のぶがまじっている。

化石



こげ茶色のでら岩の石ころの右下に、テトリンジミとよばれるジミのながまの化石がはり、ている。

化石



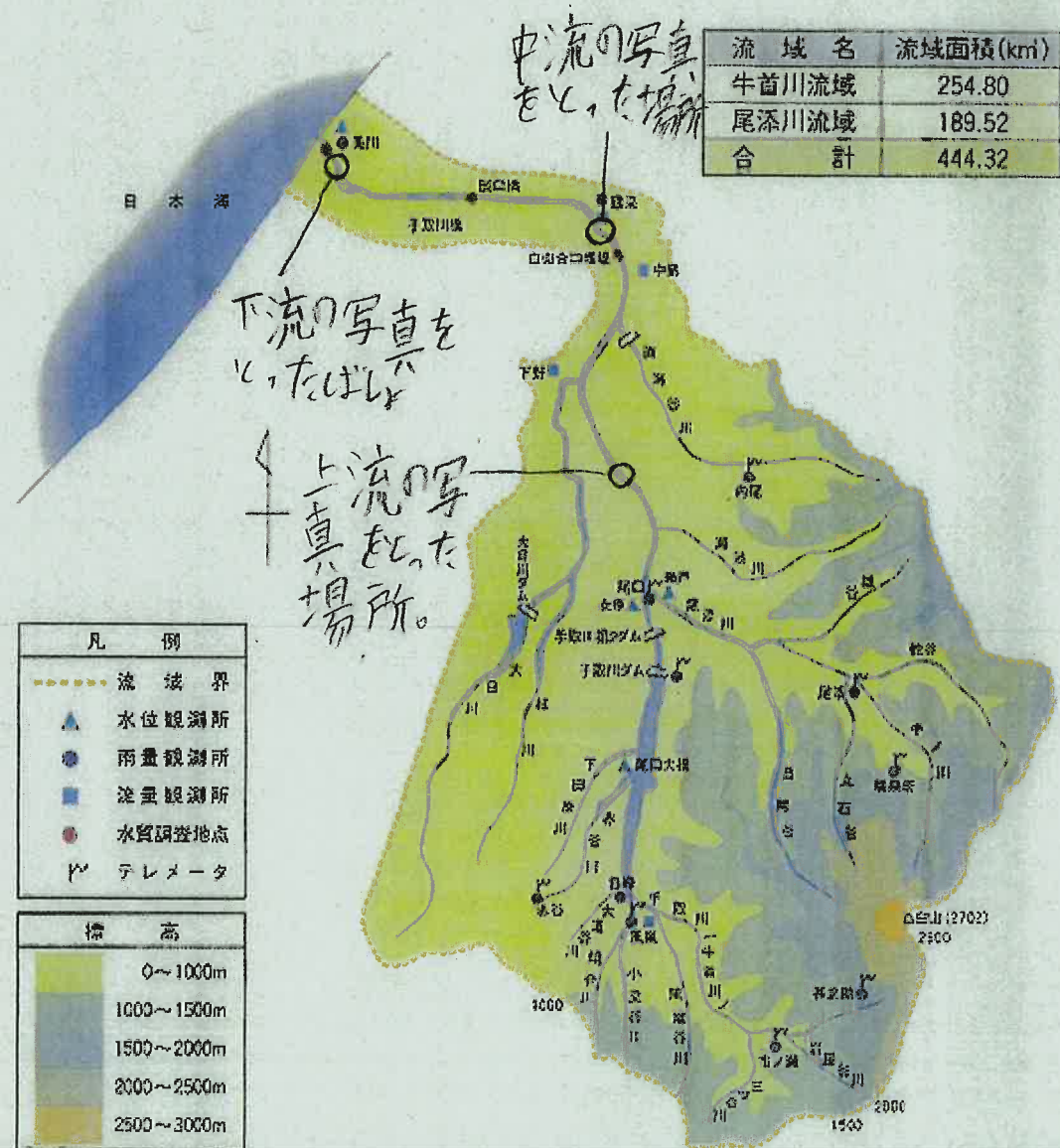
ツグのながまの化石がはらたてい岩

石ころをさらに
くわしく調べてみた。

さ 砂岩	砂がたまり積りかたまってきた 岩石。最も一般的なたまり積岩 の1つで陸上、湖底、海底など で形成される
火山れきぎ ^{かり} 灰岩	主として火山れきから形成 されているかたり火山さしせつ岩 で基質はぎや岩質である
れき山石	たまり積岩の一種で直径2mm以上の 岩石のはんがたり積りかたまってきた岩石。れき の間は砂やねん土などでかためられている ことが多い。
チャート	ちみづな石英質のたまり積岩。赤緑 灰色などいろいろな色をしているが、 鉱物質の結晶はなかなか見分 けられないくわりの多い海水中に とどけていた二酸化ケイ素が沈んで してできたと考えられるものが多い。

でい岩	どろがたり積りかたまってきた岩石。 地質時代に広く見られるたまり積岩の1つで、 ふつう1/4から1/6分の1mm以下のりしかりなる
安山岩	火山岩の一種で日本の火山に多く産す る岩石。二酸化ケイ素を60%前後、有色 物質の量を20~40%ふくむ中間質で、 深成岩のせん緑岩に相当するものを もつ
き石安山岩	はんしおこうぶつとしてき石をふくむ安山 岩。日本の安山岩最もふ通。
化石	地層の中にとどされているかこの生物 のい体や生活のあと。時代白外 は地質時代の古生物が文字愛に なる

手取川に行き、石ころをさがしてきた。



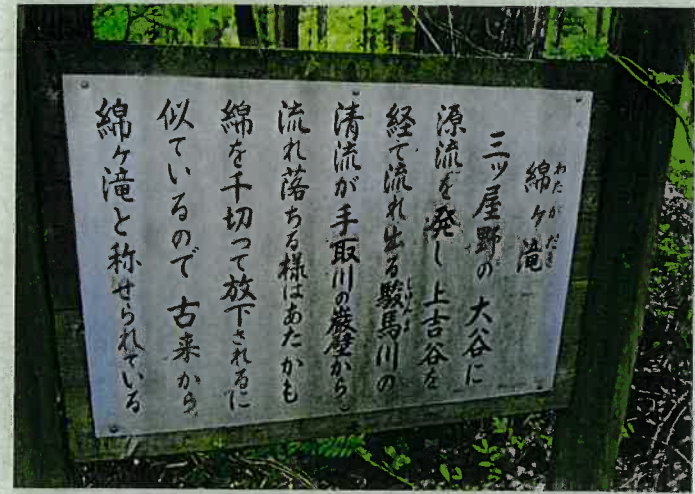
(上流)



白峰村風嵐付近

川の様子

上流部には大きな岩から小さな
までが河原や流れの中にゴロゴ
ロとあります。



手取川上流 ^{わたがたき}綿ヶ滝



^{父さん}雨の日の次の日だ、たの
で水の量が多かった。

左の岩は水の流れて
けずれた岩に見えた。

自分



大きな岩のそばに
うかがえる石を
見つけた。

自分



砂岩があられたまよえに
にっていたのでした。

自分



上流の流れは速く水の量が多く
なると、その速い流れで底や岸の岩ばみを
けずります。川底はだんだんとしずみ
深くきれいな谷をつくりいきます。そして
けずってきた土砂や山からくずれた
岩石を下流に運びます。
石はゴツゴツしている。

(中流)



川北崎付近

川の様子

川の流れがだんだんとゆるやか
になり、広い川原ができています。
人の頭くらいの石がある。

自分



あさ"やかできれいな石が何こかあった
たからした。 大きさは、ふくらんを



水ふうせんのよ
うな大きさだ
った。



よく見る石ころ
みたくてさ
ほころになっている。



この石は、石に
線が、いっている
のでと、た。



この石は、ふつ
うの白い石とく
らべて毛すくき
れいた。



中流では、上流のほうより流れが
ゆるやかになります。山から運ばれてきた
大きめの石は、ここでも流れの底に
落ち、置いていかれます。

石は上流の石より小さく、まるい。



下流になると川ははか広く、水の量が
多くなり、流れがゆったりとしておそくなり
ます。

川ぞいには、石らしい石は、少なくなり、
砂やどろがふえてきます。

小さい石や砂などが多く見られた。

まとめ

川原ではいろいろな大きさの石
や、いろいろな形の石、いろいろな種類
の石を見ることができました。

上流で大きな石が下流に流され
るにつれて、石と石がぶつかりあうなどし
て、しだいにまさらなどによって丸みを帯
びて小さくなることが分かりました。

でも、石の種類(名前)はとても多く、川原
にもたくさんの石があり、ほくにはむずか
しく、ほとんど見分けることができませんでした。

でもぼくは、次、川原に行、たとき
は、こんかい見分けられなかつた石をさがし
てみようと思いました。

参考文献

- ・(本)川原の石ころ図鑑
 - ・(作者)渡辺一夫
 - ・(発行所)ポプラ社
 - ・(出版年)2002年7月
 - ・80～83 ページ
 - ・(本)私たちのくらしと川
 - ・(発行)北陸建設弘済会
 - ・(出版年)昭和25年11月1日
 - ・14～17 ページ
 - ・白山市立松任図書館
- (写真をとった人)
自分、父さん